



Mint Club

ミントクラブ



造幣局

「造幣東京フェアの開催について」

造幣局では、主要業務である貨幣の製造のほか、記念貨幣及びプルーフ貨幣セット等の販売、長年培った造幣技術を生かした勲章、金属工芸品の製造・販売、貴金属製品の品位証明、貴金属地金の精製・品位証明なども行っています。

「造幣東京フェア」は、多くの方々に、この造幣局の業務及び製品についてご理解を深めていただくため開催するもので、平成6年の第1回開催から、本年で12回目の開催となります。

本年は10月8日（土）から10日（月）までの間、昨年に引き続き造幣局東京支局構内の開催（9時から17時まで）を予定しています。

本年の造幣東京フェアは、平成17年が昭和30年に現行の1円アルミニウム貨幣が誕生してから50周年となることから、1円というものを様々な角度から見していくとともに、貨幣、勲章等の製造工程等を実物やパネルを交えて、わかりやすく紹介します。

また、七宝体験などいろいろと楽しめるイベントコーナーも企画しております。

さらに、開催を記念した貨幣セットも販売する予定です。

お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。

昨年のフェアの模様



会場周辺図 造幣局東京支局（東京都豊島区東池袋4-42-1）



交通機関

東京メトロ有楽町線「東池袋駅（4番出口）」より徒歩10分・都電荒川線「向原駅」より徒歩5分

東京メトロ各線・西武池袋線・JR「池袋駅（東口）」より徒歩15分・JR「大塚駅（南口）」より徒歩10分

お問い合わせ先：総務課文書広報係 03-3987-3521

世界貨幣フェアに出展



7月27日から31までの5日間、アメリカ貨幣協会主催の世界貨幣フェアが、カリフォルニア州サンフランシスコで開催され、造幣局は昨年に引き続き出展しました。同フェアは、今回で114回を数える歴史ある世界最大規模の貨幣フェアであり、アメリカ主要都市の持ち回りで開催されているものです。

造幣局は、ブースにおいて愛知万博500円記念貨幣入りミントセット、ジャパンセットなどの貨幣セットや、桜の通り抜けメダル、各種ペンダントなどの金属工芸品を販売しました。また、国内でも販売を開始したドラえもん誕生35周年ミントセット、世界文化遺産貨幣セット（紀伊山地の靈場と参詣道）の展示・紹介を行うとともに、これらのセットを中心に海外コインディーラーとの商談を行いました。特にドラえもんはアメリカにおいてかなりの知名度があり、ブースを訪れた人たちやディーラーの大きな関心を呼んでいました。

このほか、各国の貨幣を配布しスタンプを押印する世界貨幣パスポートブックに参加し、5円貨幣を配布しました。

開催期間中、ブースには千人を優に超える来場者があり、海外における造幣局製品の紹介に大きな成果を上げた5日間でした。



「ペンシルロケット50周年記念及び1円アルミニウム貨幣誕生50周年」

2005プルーフ貨幣セットの販売受付を近日中に行います。

ペンシルロケット50周年記念2005プルーフ貨幣セット



戦後ゼロからのスター
トとなった日本の観測ロケットの
研究は、1955年4月12日に東京都国分寺市での
ペンシルロケットの水平発射によって始まり、同年8月6日
に秋田県で最初の打上実験が成功しました。国産ロケットの開発の端
緒となったペンシルロケットの打上げから、今年で50年となることから、これを
記念した貨幣セットです。

1円アルミニウム貨幣誕生50周年2005プルーフ貨幣セット



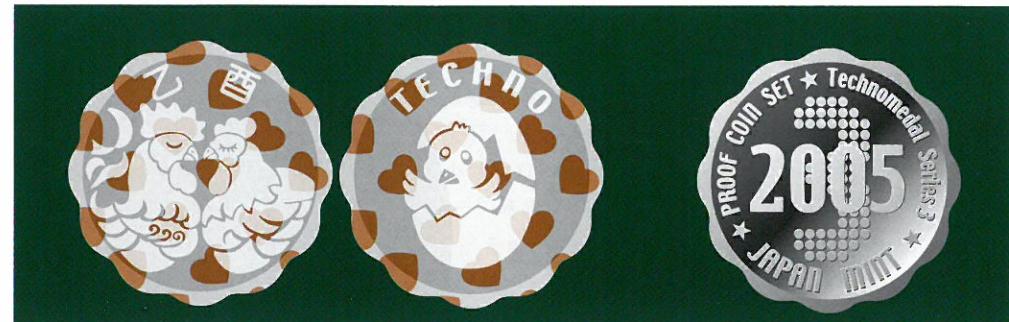
現行の1円アルミニウム
貨幣が、昭和30年に誕生して以来今年
で50周年を迎えることとなりました。これを記念
した貨幣セットです。

メダルは、1円アルミニウム貨幣のデザインと同じ「伸びゆく日本を
象徴する若木のイメージ」をカラー印刷し、外装紙ケースには、1円アルミニウム
貨幣の誕生から現在までの歴史、中板には現在も製造されている1円貨幣をデザインしています。

テクノメダルシリーズについて

表

裏



平成17年銘テクノメダルシリーズ・プルーフ貨幣セットに組み込まれているメダル(テクノメダルIII)については、異なる種類の金属の板と箔(アルミ箔のように薄く加工したもの)を接合する技術である箔クラッド技術を採用しております。

箔クラッド技術により銀板と銅箔を接合した後、銅箔の特定個所を選んで特殊な処理(エッチング)を施すことにより、銀板の上に銅箔で様々な模様を描くことができます。

この技術を施したテクノメダルIIIは、銀色と銅色の金属特有のコントラストを持ち、銅箔の模様は親しみやすいハートの形にしております。

その上に第1回目のテクノメダルに施した潜像技術を組み合わせてありますので、銅箔と潜像の模様を同時に楽しむことができます。

また、この箔クラッド技術を応用した金属工芸品の新製品を販売する予定にしておりますので、改めてご案内させていただきます。

※上記写真はデータをもとに作成したものであり実物とは異なります。



テクノメダルシリーズI及びIIについて

テクノメダルシリーズI

平成14年銘テクノメダルシリーズ・プルーフ貨幣セットに組み込んだ
メダルについては、絵があらゆる角度から見ても動くように見える潜像
技術を施しています。(図柄は馬)



テクノメダルシリーズII

平成16年銘テクノメダルシリーズ・プルーフ貨幣セットに組み込んだ
メダルについては、コア(中心部)に青銅、リング(外周部)に純銀を組
み合わせたバイメタルです。

造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 14



A。エドワード七世戴冠記念牌、表。英國造幣局製。青銅。直徑55.5mm。重量80g。淡褐色煮込仕上。細い一段覆輪。極く浅い凹面に王冠を戴いたエドワード七世の右向上半身肖像。外套の上にガアタア勲章の頸飾を付け、肩の上で縞子のリボンで固定してある。左下部に月桂樹の枝。周縁部に「EDWARD VII CROWNED 9 · AUGUST 1902」の文字。

EDWARD VII (1841~1910) (在1901~1910) はヴィクトリア女王の長男。1901年、母ヴィクトリア女王の死に伴ひ即位した時には既に六十歳であった。

戴冠式は六月二十六日に行はれる豫定であったが盲腸周囲炎の手術を受ける必要が生じて八月九日に延期されたのである。六月の日付入りで既に製造中であった章牌は熔解され、極印は新らしい日付で作り直された。

本章牌は金、銀、青銅の「大」(55mm)と、金、銀の「小」(31mm)とが製造された。

B。全左、裏。表と同じく極く浅い凹面に冠を戴いたアレクサン德拉皇后の右向上半身肖像。左下部に薔薇の枝。周縁部に「ALEXANDRA QUEEN CONSORT」の文字。下部のリボンの上に「9 · AUG. 1902」の文字。

アレクサン德拉皇后 (1844~1925) はデムマック國王クリスティアン四世の長女。1863年、まだ皇太子であったエドワード七世と結婚。非常に人望のあった皇后である。

此の章牌は表裏とも、圓に對する人物像のおさまりも、文字の配置も良く、薄肉のレリーフも非常にうまい。

原型彫刻はGeorge William De Saulles (1862~1903) であるデ・ソウルスはバーアミンガムの美術學校に學び、極印彫刻家となり、ロンドンのジョン・ピンチズとジョセフ・ムウアの下で働いた後、英國造幣局に入り、1892年にChief Engraverとなった人である。エドワード七世の肖像の貨幣は殆ど彼の作であり、章牌の作品も非常に數が多い。精緻な薄肉レリーフに優れた彫刻家である。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

国産ロケットの歩み

宇宙航空研究開発機構 執行役（教育・広報統括）
教育センター長 的川 泰宣

50年前、1955年（昭和30年）の4月12日、東京の国分寺で長さ23cm、直径1.8cm、重さ200グラムの小さなロケットが水平に発射されました。ペンシルロケットです。その時の「シュッ」という短い発射音が、日本の宇宙開発の産声でした。そのとき50年後の今日の宇宙開発の姿を心に思い描いた人がいたでしょうか。それは知る由もありませんが、私には、ペンシルロケット開発のリーダーだった糸川英夫先生だけは、もっともっと進んだ姿を想像していた可能性があると思っています。

その証拠の文章が当時毎日新聞に載った「科学は作る」という記事です。そこには「太平洋を20分で横断するロケット旅客機」という彼の夢が紹介されています。そして当時の東京大学生産技術研究所の若い研究者たちが、この魅力的な構想に心を躍らせて、AVSA (Avionics and Supersonic Aerodynamics) 研究会に参加してきたのでした。この小さなAVSA研究会が、すぐにペンシルを生み出し、後に国際地球観測年を始めとする日本の宇宙科学の世界への雄飛をサポートする宇宙工学陣の土台となっていました。

私は当時中学生になったばかりでした。新聞に載ったペンシルの記事を読み、父や兄たちが「ああ、日本もロケットを始めるんだって……」と語り合っている様子を、淡い印象ながら覚えています。サンフランシスコ体制が敷かれて間もない日本、やっと第二次世界大戦後の占領状態から脱け出し、独立して自分の道を歩み始めたばかりの祖国の夜明けでした。私の脳裏になぜかずっと後々まで印象を残したわが家の茶の間の雰囲気は、家族のみんなが「日本が明るい未来に向けて出発したような」予感を口にしたものだったこと、つまり裏を返せば、このロケット実験が、日本の未来を照らすさやかなともし火だったことを告げているのだと思っています。

その後日本のロケット開発は、太平洋横断のロケット旅客機ではなく、先述したように理学部の人たちの宇宙科学への挑戦と手を携えて発展し、その時々の科学の要求に応えながらミュー(M)ロケットの大型化、高性能化を進めてきました。

観測ロケットの大型化、日本初の人工衛星「おおすみ」(1970)、日本初のX線天文衛星「はくちょう」(1979)、固体燃料による世界初の地球重力脱出であるハレー探査試験機「さきがけ」(1985)、日本初の月ミッション「ひてん」(1990)、人類の太陽像を塗り替えた「ようこう」(1991)、大規模な太陽地球系物理学の国際観測計画で活躍した「ジオテイル」(1992)、1990年代の世界のX線天文学をリードした「あすか」(1993)、世界初のスペース VLBI を張った電波天文衛星「はるか」など、ペンシルの後継者たちが屋台骨となって世界の宇宙科学にトップクラスの貢献をしたミッションは、枚挙に暇がないほどです。

このプロセスを支えたのは、ミュー(M)という最初から100%国産だった固体燃料ロケット



です。その最新型のM-Vロケットは、世界最大級の衛星打上げ用の固体燃料ロケットにまで成長してきています。ペンシルロケット以来、着々と大きくなり、強固になっていった日本の宇宙工学と宇宙物理学のチームの残したこれらの果実を、私は心から誇りに思っています。

また、これとは別に1960年代から、実用面での宇宙開発も始まりました。この頃になると、アメリカと旧ソ連を中心として、宇宙活動には、天気予報、通信、放送、測地など人々の生活と直結した利用の道があることが認識され、気象衛星・通信衛星・放送衛星・測地衛星などのいわゆる「実用衛星」がどんどん打ち上げられるようになっていきました。日本も人々のお茶の間と結びついたこの種の衛星を、国家主導で開発しなければならないと意識され始めたのでした。こちらはアメリカからの技術導入を軸にしながら、N型からH型へと徐々に国産化の度合いを強めていき、H-2ロケットによってついに液体燃料ロケットの100%国産化に成功しました。その途上でスーパー301などの不愉快な事柄にも出くわしましたが、さらにコストダウンを図ったH-2Aロケットのデビューで、現在の日本の宇宙開発技術は世界のトップクラスの水準にあると言えます。この間に捧げられた宇宙開発事業団を中心とするエンジニアたちの血のにじむような努力に敬意を表します。

2003年10月1日、こうした科学と実用の二つの流れ、それに航空関係の研究開発組織が、行政改革の一環として統合され、JAXA（宇宙航空研究開発機構）が誕生しました。統合されて日も浅いJAXAは、まだまだ様々な課題が山積しているのは当然ですが、それらを解決していくための基本は、やはり「初心忘るべからず」なのでしょうね。

創設して間もないJAXAは、地球観測用の「みどり2号」が機能を停止し、情報収集衛星を搭載したH-2Aの打上げに失敗し、さらに火星探査機「のぞみ」が火星周回軌道への投入に失敗するなど、相次ぐ不具合でいきなり試練に直面しました。生まれたばかりの赤ちゃんが相次いで3つの病気に見舞われたわけですから、これは厳しいですね。

事故調査委員会が頻繁に開催され、報告書が次々と出され、やっと「ひまわり6号」を静止軌道に乗せることによってH-2Aの打上げ再開が果たされたのが今年の2月。7月には日本が世界に誇るX線天文衛星の5代目である「すばく」がM-Vロケットによって軌道に送られました。

2003年5月に打ち上げられた小惑星からのサンプルリターンを狙う「はやぶさ」は、他天体からの表面物質を地球に持ち帰るアポロ計画以来の初めての試みです。「はやぶさ」は、現在ターゲットの小惑星「イトカワ」に接近しており、これから本格的な観測、サンプル収集作業を行います。この小惑星に「イトカワ」という名前をつけたことを、糸川先生は何と思われるでしょうか。

「大きさがわずか500mくらいの星に私の名前をつけるなんて」と言われそうですね。でも、50年前にペンシルが受け持った日本の驚異的成長の幕開けを予告するものだったので同じように、この「はやぶさ」ミッションが、閉塞感に覆われている現在の日本にとっての光の道しるべになってほしいと願うのは、ミッションの関係者だけではないでしょう。50年前のペンシルが果たした役割を担うべきその栄えあるミッションのターゲットに、奇しくもペンシルの演出者の名前が冠せられていることは、本当に面白いと思いますね。

ペンシルは、これからまさに伸びていこうとする日本にとって、小さな灯台となりました。宇宙が未来への投資であることを象徴的に物語っていると思います。ロケットを1機打ち上げるた

びに、宇宙開発への賛否が渦巻く日本の環境では、未来を拓く宇宙活動を展開することが非常に語りにくい局面にあります。しかし一方で、最近発表された「JAXA長期ビジョン」へのみなさんの反応を見ていると、本当は「未来志向の強力な牽引車」の出現をみんなが求めているのだということを、逆説的にビンビンと感じ取ることができます。出された長期ビジョンをより具体的に強力に推進することによって、日本の行く手に明るい展望を拓きたいものです。

50年前のペンシルを作り上げた人たちが、当初は科学を支えようと思っていたのではなく、純粋にエンジニアリングの世界で未来を描こうとした人たちであったことを、最近私はよく考えることがあります。そのことに想いを馳せるとき、現在の、経済が開花しているようだけれども人心が荒廃している祖国の未来を照らすともしが、新たに宇宙をめざす若者たちによって点されることが期待されます。

あの毎日新聞の記事で50年前に糸川英夫先生が示唆した「太平洋横断ロケット旅客機」は、今や世界で本格的な取り組みにかかっているところです。その意味では、今から50年後の宇宙輸送機をめざす大きな計画を心に設計する創造力と想像力に溢れた自由な発想の若者たちが出現して欲しい。私は今しみじみとそのことを感じています。そのような志をもって、ペンシル50周年に当たり、JAXAは「宇宙教育センター」を設立しました。宇宙の現場から若者たちの成長を心から支援する日本中、世界中の連携の大運動の核となることを夢見て。



H-2Aロケット



H-2Aロケット

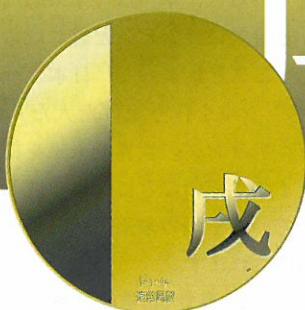


M-Vロケット

平成17年10月～12月の貨幣セット販売予定

販売区分	種類	販売価格	受付開始時期	参考
通信販売 (平成17年銘)	世界自然遺産貨幣セット(知床)	1,900円	10月下旬頃	受付開始時にDMでお知らせします。
	ペンシルロケット50周年記念ブルーフ2005貨幣セット	13,000円		
	1円アルミニウム貨幣誕生50周年2005ブルーフ貨幣セット	13,000円		
	2005セントラルリーグ優勝記念貨幣セット	2,200円		
	2005バシフィックリーグ優勝記念貨幣セット	2,200円		
通年販売	平成17年銘ジャパンセット	1,900円	ミントショップ、インターネット等で販売中(在庫限り)	
	ペーパーウェイト	3,900円		
	記念日セット	2,000円		
	同上録音機能付き	2,900円		

純金「干支メダル」の販売について



戌

1910年
大正9年

造幣局では、貨幣や勲章の製造技術を維持・向上させるために、皆様の多様なニーズに応えたメダル・銀盃・記章（バッジ）などの金属工芸品を製造販売しています。

平成15年には平成大判・徳川家康肖像メダル、平成16年には聖徳太子肖像メダル・人形浄瑠璃文楽七宝章牌を、また、例年の販売として桜の通り抜け記念メダル、ICDCメダルを販売し、皆様からご好評をいただいているところです。

今年は、皆様にも大変馴染みの深い「干支」を題材とした純金メダルを新たに販売することとしました。

メダルの表面デザインは、平成18年の戌年にちなんで天然記念物の柴犬（昭和11年12月16日指定）にしました。

裏面は、表面とは視覚的な違いを楽しんでいただくために幾何学的なデザインとし、さらに金の素材感を表現するために鏡面仕上げを取り入れています。

メダル仕様

材質	純金
直径	40mm
重量	95.0g
販売価格	300,000円（税・送料込み）
販売予定数	300個
その他	裏面ブルーフ仕上・ホールマーク入り・ケース付き

※写真はイメージ図で商品とは多少異なります。

申込み要領

- お申込みは、同封の申込ハガキに必要事項をご記入のうえ、9月27日（火）までにお願いします。（消印有効）
- 10月中旬頃より造幣局発行の払込用紙を順次発送いたします。
- お届けは、11月上旬以降の予定ですが、12月上旬頃となる場合があります。

夏目漱石メダルの販売について



夏目漱石（1867.2.9～1916.12.9）が、「吾輩は猫である」を雑誌「ホトトギス」に連載を開始（1905年）してから100年が経ったことを記念して「夏目漱石メダル」を販売することとしました。

皆様に好評をいただきました徳川家康、聖徳太子のメダルと同様、夏目漱石メダルについてもご愛蔵いただきたいと思います。

なお、メダルの表面は漱石46歳時の肖像画を用い、裏面は雑誌「ホトトギス」に3回連載（上中下巻）されたもののうち、上巻の挿絵を用いています。

メダル仕様

材質	純銀
直径	60mm
重量	160g
販売価格	15,000円（税・送料込み）
販売予定数	3,000個
その他	いぶし仕上・ホールマーク入り・ケース付き

申込み要領

- お申込みは、同封の申込ハガキに必要事項をご記入のうえ、9月27日（火）までにお願いします。（消印有効）
- 10月中旬頃より造幣局発行の払込用紙を順次発送いたします。
- お届けは、11月上旬以降の予定ですが、12月上旬頃となる場合があります。



JQA-QM9665

発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
電話 06(6351)6928
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室
平成17年9月2日発行（第14号）

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています

表紙：平成17年銘テクノメダルシリーズ・ブルーフ貨幣セット・平成17年銘ミントセット
裏表紙：干支メダル・夏目漱石メダル



Japan Mint